

報道発表資料

同時資料提供

大阪科学・大学記者クラブ
大阪教育記者クラブ
南大阪記者クラブ
関西レジャー記者クラブ

令和3年6月25日
大阪市立自然史博物館
電話 06-6697-6222

2025年万博会場・夢洲において

大阪府で「絶滅」とされた水草「カワツルモ」を再発見

このたび、当館の学芸員が中心となって実施した夢洲の植物調査において、大阪府レッドデータリストで「絶滅」と判定されたカワツルモが再発見されました。この研究成果は水草研究会の会誌「水草研究会誌 (Bulletin of Water Plant Society, Japan)」に投稿済みで、111号に掲載予定です。当館の研究成果をぜひ貴社の記事として扱っていただきますよう、ご検討お願い申し上げます。

<発表のポイント>

■カワツルモは海岸沿いの汽水域に生育する水生植物で、大阪府下では1996年以降は全く記録がなく、生育環境も皆無と考えられたことから、「大阪府から絶滅」したとされてきました。

■ところが、当館の学芸員が中心となって実施した夢洲の植物調査において、万博会場予定地の南東端の水域で再発見されました。水草類は水鳥とともに移動することが知られており、カワツルモもこのようにして他の生育地から移動してきたと考えられます。近畿地方まで広く見てもカワツルモの現存する生育地は極めて少なく、今回確認された生育地は非常に貴重です。

■しかし、カワツルモが確認された場所は今後、残土置き場等として利用されるため、まもなく埋め立てられる予定になっています。

■夢洲は、大阪府のレッドデータリスト2014において、生物多様性ホットスポットとして取り上げられており、大阪市生物多様性戦略の中でも、夢洲を重要な自然環境として取り上げています。カワツルモの生育地やその周辺のヨシ原も含めた保全が望まれます。

夢洲で発見されたカワツルモの標本や生育環境について以下の通り展示します。

○期間：令和3年6月26日（土）～8月29日（日）

○場所：大阪市立自然史博物館 本館1階・入り口付近

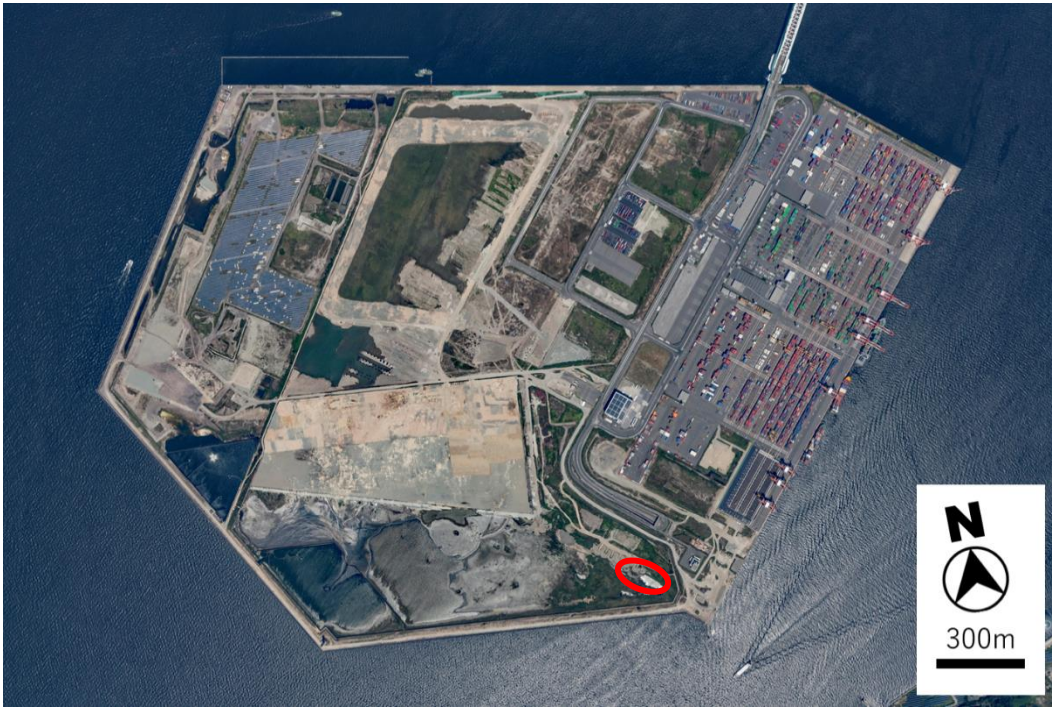


図1：カワツルモの確認地点（赤丸）。航空写真（2020年8月撮影）は大阪市が公開しているもの（<https://www.city.osaka.lg.jp/port/page/0000457222.html>）を使用。



図2：夢洲で発見されたカワツルモの生育環境



図 3 : 夢洲で発見されたカワツルモ



図 4 : カワツルモの特徴的な果実

1. 研究について

◆概要◆

低湿地や汽水域に生育する沈水性の水草類は、多くが絶滅の危機にあります。特に大阪湾岸では、自然海岸のほとんどが改変されており、このような水草類の自然状態での生育環境はほぼ消滅しています。一方で、埋め立て地や人工島などでも、造成後そのままの状態ですと一定期間経過すると、湿地や草地が形成されることがあります。このような環境は鳥類等の生息地として注目されてきましたが、水草類の生育地としては重要視されてきませんでした。

大阪湾に浮かぶ人工島である夢洲にも、造成後で長期間放置されている場所があり、そのような場所では、わずかに塩分を含む止水環境やある程度まとまったヨシ群落など、大阪湾岸では稀になった環境が形成されています。しかし、2018年に夢洲が国際博覧会の開催予定地として決定されて以降、急ピッチで土地の造成が進行しており、現在残されている汽水環境やヨシ群落が大きく改変されつつあります。そこで改変前の植物相を把握するために、当館の学芸員が中心となり、2019年～2020年にかけて立ち入り許可を得て調査を実施しました。その結果、今回報告するカワツルモをはじめとして、リュウノヒゲモ、ツツイトモなど、貴重な水草類が発見されました。

カワツルモは、近畿地方においては生育地が極めて限定され、絶滅が危惧される植物で、大阪府では「絶滅」、兵庫県、和歌山県では「最も絶滅の危険性が高い」と判定されていました。このように、大阪湾岸のみではなく、近畿地方まで広く見てもカワツルモの現存する生育地は極めて少なく、今回確認された生育地は極めて貴重です。

夢洲は、大阪府のレッドデータリスト2014において、隣接する野鳥園臨港緑地（元・大阪南港野鳥園）とともに生物多様性ホットスポット（希少な野生動植物が生息・生育し、種の多様性が高い地域）の一つとして取り上げられており、さらにその中でも、Aランク（規模的・質的に優れており、貴重性の程度が最も高く、全国的価値に相当するもの）に位置付けられています。また、大阪市においても、大阪市生物多様性戦略の中で、大阪府レッドリストを引用する形で夢洲を重要な自然環境として取り上げています。このように、夢洲は造成途中の人工的な場所である一方で、大阪府のレッドリストや大阪市の生物多様性戦略でも取り上げられている重要な自然環境でもあります。しかし、カワツルモ生育地を含め造成途中の段階で形成された水域の多くは、今後埋め立てが予定されています。特にカワツルモが確認された地点は、2025年の国際博覧会の会場の南東端に位置しており、早急に保全対策が必要です。

※兵庫県レッドデータブックでは最も絶滅の危険性が高いAランク、和歌山県レッドデータブックでも最も絶滅の危険性が高い絶滅危惧IA類とされています。

◆意義◆

カワツルモは、大阪湾岸のみならず、近畿地方まで広く見ても生育地が極めて限定され、絶滅が危惧される植物です。大阪府では、絶滅と判定された種の再発見となり、現在のところ、夢洲以外では確認されていません。今回確認された夢洲の生育地は規模としても大きく極めて重要です。また、水鳥類の生息環境としても重要であり、周囲のヨシ原も含めた保全が望まれます。

◆今後◆

今回確認されたカワツルモの生育環境は、今後埋め立てられる予定となっています。しかし、大阪府のレッドデータリスト 2014 や大阪市の生物多様性戦略でも触れられているように、夢洲は人工的な土地であると同時に、重要な自然環境でもあります。また、水草類は鳥類の移動とともに移動し、分布を広げることが知られています。今回発見されたカワツルモの生育環境については、カワツルモの生育環境だけではなく、周囲のヨシ原も含めて、鳥類の生育地としても保全し、残していくことが重要でしょう。

また、大阪市立自然史博物館では今回発見されたカワツルモとその生育環境の展示を行います。

2. お問い合わせ先

大阪市立自然史博物館

TEL : 06-6697-6221 FAX : 06-6697-6225

○広報および広報用画像に関するお問い合わせ

総務課 広報担当 森松 五月（もりまつ さつき）

Email: s-morimatsu@ocm.osaka

○研究の内容に関するお問い合わせ

植物研究室 学芸員 長谷川 匡弘（はせがわ まさひろ）

Email: hasegawa@mus-nh.city.osaka.jp

3. 施設の基本情報

大阪市立自然史博物館

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23

TEL : 06-6697-6221 FAX : 06-6697-6225

大阪メトロ御堂筋線「長居」駅下車3号出口・東へ800m

JR 阪和線「長居」駅下車東出口・東へ1000m

常設展示観覧料：大人 300 円、高大生 200 円

※中学生以下、障がい者手帳などをお持ちの方、市内在住の 65 歳以上の方（要証明）は無料。

ホームページ <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>